

PTA あきた

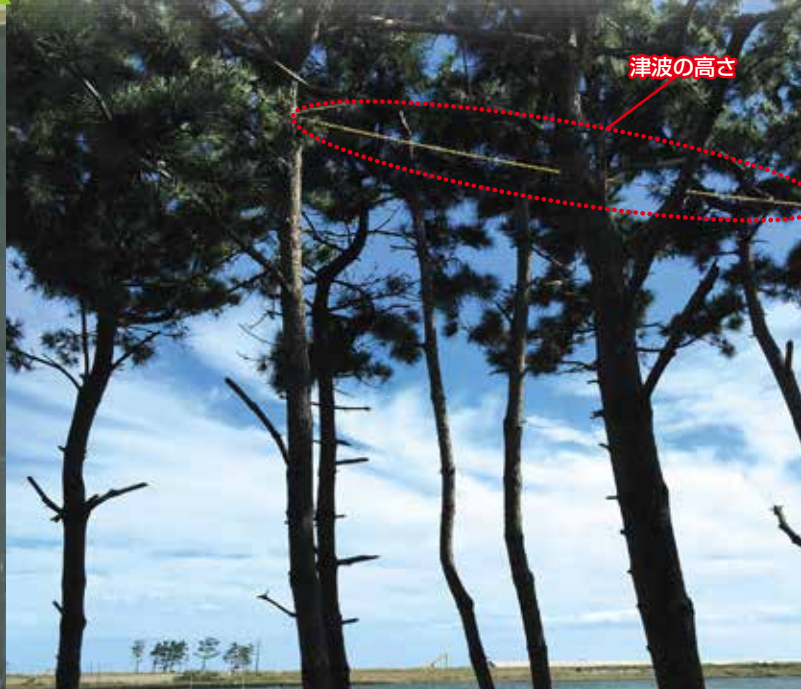
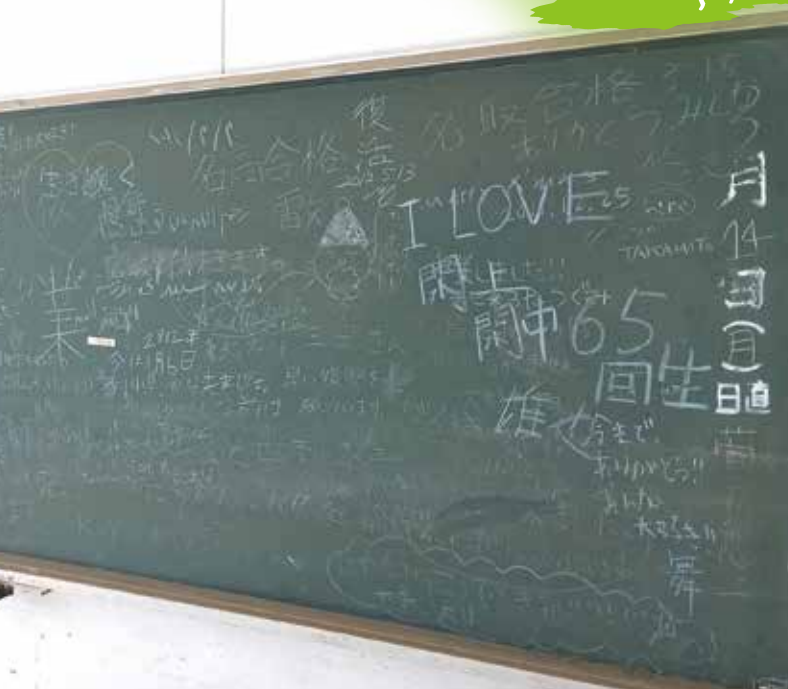


2015.12.22 No.129

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail : pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com



～みんなで育てる 秋田の子ども～



津波の高さ



震災被災地 名取関上地区
東北ブロック研究大会視察から
撮影 野崎 一

平成27年度 第41回 秋田県PTA研究大会 横手大会

平成27年10月24日(土)～10月25日(日)秋田ふるさと村ドーム劇場と横手セントラルホテルにて、県内のPTA会員491名が参加し、横手大会実行委員会のおもてなしの心遣いがあふれた温かな、そして参加者の熱く活発な討議が行われた大会となりました。初日は横手セントラルホテルで、206名が参加し、情報交換会が行われました。2日目は開会式と三行詩コンクールの表彰、その後佐藤さゆ里氏の講演、昼の時間には、第4回東日本大震災復興支援秋田県PTAチャリティーフェスタを催しました。午後の部は横田晋務氏の記念講演、閉会式と続き、次期開催地大館・北秋田PTA連合会からの強いアピールで終了しました。



記念講演 & 研修会

脳から見る生活習慣と学力との関係

東北大学加齢医学研究所 助教 横田晋務 氏

学習意欲向上と朝食習慣と睡眠時間の研究で成績下位グループと成績上位グループと比較すると成績上位グループはやはり朝食を食べている子たちが多いことがわかってきた。また睡眠時間の長短研究では、上位グループの方に寝ている子が多いことがわかってきた。

インターネット利用時間と学力の関係では、勉強する時間を2時間以上、30分から2時間、30分未満に区分すると、例えばスマホを4時間以上やってしまうと2時間勉強していても、30分くらいしか勉強していない子どもと同じくらいの成績になってしまうことがわかった。国語よりも数学の方が影響が強くて出ている。

LINEの学力への影響の研究からは、LINEとかスマホをたくさん使っている(LINE条件)と長い時間勉強してもその効果は薄れてきてしまう。LINE条件下では反応時間が遅く、速かったり遅かったりとムラがあり、集中しにくいことが明らかになった。

対策としては、LINEの通知が鳴らないように設定する、スマホは別の部屋に置いて勉強するような集中力低下を防ぐ対策が有効と考えている。

メディア機器に対する強い習慣を持っている、持っていないという人に分けて研究してみると、課題が難しくなってくると、強い習慣を持っている人は成績が低くなってきていることが明らかになっている。長時間のスマホやLINEの習慣的な使用は注意の集中を損なうおそれがある。そのために反応時間が遅くなったり、ムラが出てきたり集中しにくい現象が起きてくるのではないかと考えられる。

最後に、学力は、健康的な生活習慣によって、支えられている。朝食はきちんと摂ること。適切に睡眠時間を確保する。さらに、スマホ、携帯の使用は長くても1日1時間くらいに抑える。そういうことが重要。特に、LINEなどのトークアプリの使用は集中力の低下を招く可能性がある。生活習慣を整えることが脳と心のはたらきを健やかに保つカギなのではないか明らかになった。(本多記)



心の基地づくり

～大人から子どもへのプレゼント～

「南かがやき教室」教育相談員 佐藤さゆ里 氏



子どもが悩みを自分の問題として解決しようとする姿は「カッコいいな」と思っている。「あの時悩んだおかげで」「今の自分がある」という自信に満ちた顔をして

いる。悩みを力に変えた子どもは「自分のことはキラじゃないよ」「短所もあるけど自分てなかなかいいよね」と言っている顔は人に好かれようと思っている顔ではなく、「I'm OK」である。この「I'm OK」があれば前に進んでいける。

この気持ちを増やすコツは、**子どもたちに素敵な言葉を届けること**です。

悩んでいる子は「みんなと同じ事ができない私ってダメだね」というように子どもは「きっと～だと思ふ」と推理している。大人も「言わなくてもわかってはいるはず」とお互いに推測しあっている。「言葉」にして言われて初めてわく勇氣がある。

①存在を認めて「えらい」ではなく「ありがとう」を

- ②結果で励ますのではなく、プロセスの段階を言葉に
- ③一緒に悔しさ・悲しさを出し、がんばったからこそ悔しい、だから次がんばろうの声を
- ④ありがとうが家では出にくいので大人からありがとうを
- ⑤「おかあさん 嬉しいな」と言葉に
- ⑥当たり前にできるようになったことを改めて労う言葉を
- ⑦心をこめての「いってらっしゃい」「おかえりなさい」

小さい頃は認め・ほめる言葉が圧倒的に多いが、少しずつ大きくなると「そんなんじゃダメ」「直した方がいいよ」という言葉が増えてくる。温かい言葉＝認め・ほめる言葉が多い方が心が動く。

素敵な言葉とセットで体のメッセージを使おう。

言葉と一緒に視覚・口角・体の向きで言葉が心にしっかり届く。

重要な他者から「またあなたは…」という言葉をかけられることによって「どうせ自分は…」という「I'm not OK」のイメージが作られ、良いところが見えにくくなっていく。「～いいね」「いつもがんばってるね」という言葉は「きっと自分なら大丈夫」「I'm OK」という自己イメージが作られていく。

人生は、選択の連続。自分で選択してがんばっている子どもは不安でいっぱい。選択するときに「私のことを丸ごと思ってくれるあの人がいるから大丈夫—I'm OK」という「あの人」が思い浮かべられて選択したのなら大丈夫だ。悩みのない人生などない。悩みでつぶれない心—「あの人=心の基地」の存在があれば乗り越えられる。

(宇佐美記)

第63回

日本PTA全国研究大会札幌大会

テーマ

「ひろがれ 子の未来(ゆめ)! つながれ親力! ~今 札幌から始まるこれからのPTA~」

記念講演 「あなたは子どもたちの想像力をそだてていますか」 倉本 聡 氏

開催 平成27年8月21日~22日 札幌市



最近、ご近所さんと挨拶していますか?

秋田県立四ツ小屋小学校PTA会長 吉川 ひかる

「組織運営」「家庭教育」「広報活動」等、10のテーマ・会場に別れての分科会。その中から私は『子ども1人1人を育てための【地域連携】のあり方(講師:大泉恒彦先生)』を選びました。

私たちが子どもだった頃、良くも悪くも地域の人々の相互干涉があり『隣の子どももうちの子ども』と、お互いに見守り、見守られながら成長してきました。あれから数十年…。「社会環境」の変化と共に、子どもたちの環境も大きな変化を遂げています。【あなたは(他の子どもたち・ご近所さんに)どのような接し方をしていますか?】特に都会とも・田舎ともいえない住宅地で生活している私には、深く響いた言葉でした。ちなみに講師の大泉先生は、俳優の大泉洋さんのお父様。優しく、少し甲高い…独特の「間」があるお話は、【夫婦共に道立・市立の教職員だったこともあり「ただいま!!」と元気に玄関を開けて帰る環境で育ててあげたい…そんな世間話の願いを、お隣さんが引き受けてくれた。今でも北海道に帰ってくるたび「育ての親」のお隣さんに寄ってから「生みの親」の実家に帰ってくるんですよ。】【周りの人達に愛されて育ったから、今の仕事の現場も、あいつがいれば大丈夫(ヒットします)笑。】と、ユーモアを交えての楽しい講演でした。

『すご〜い♪みんな笑顔だね〜!!』『PTAが楽しい♪って大人が、こんなにたくさんいるんだね〜♪』とは、帰宅後一緒に全国大会の“集合写真”を見ていた子どもたち。PTA活動は、今日・明日大きな結果の見えるものではありませんが、私たち大人が、楽しみながら取り組んでいる姿をみせることも、子どもたちに夢や希望を与える1つなのかもしれません…。



北の大地・札幌での全国研究大会

東成瀬村立東成瀬中学校PTA会長 谷藤 ひろ子

会長の要職に就いて、初めてPTA全国研究会に参加しました。

私は、特別第一分科会に参加し、また全体会では倉本聡監督による記念講演もありました。何よりも分科会が充実しており、また全体会の内容、歓迎アトラクション等に感激し、欲を言えば全て聴講したいと思うくらい、興奮冷めやらぬ2日間でした。

特別第一分科会は「この未来(ゆめ)を知り、支援する保護者の力」を研究課題とし、女優千堂あきほさんの基調講演や現役中学生の生の声を聞くことができました。千堂さんは高校卒業当時、幼稚園教諭の夢を抱きながらも芸能界という真逆の選択肢を選びました。子どもの学校入学、卒業、進路選択の際に成績は然り、親の意見や支援がかなり重要であることは私も十分心得ているつもりなのですが、神戸を離れ、成功するかどうかわからない芸能界の世界を選択した子どもの判断を、当時千堂さんのご両親は「ダメだったら戻ってくればいい。本当になりたかった道に進めばいい。」という寛容な猶予を与えてくれました。夢に真っ直ぐ向かう教育と、たくさんの糧を得てからの夢に向かう支援の力。子どもの何年か後の精神的、身体的ステータスが非常に気になるところでありますが、支援する親の力のさじ加減が問われるなあ…と来年の長男の就職問題の参考となった分科会でした。

そして、全体会。倉本監督による記念講演。現在は閉講した富良野自然塾の話にも触れ、如何にして生き残るか、生きることへの執着と教育の根本や教師のあり方について感銘をうけました。不便さを感じる事が殆どないに等しい現代社会ですが、想像力をもって学んで生きることの体験が少なくなっていることに不安も感じました。社会全体で子どもたちを育てていた昭和の時代を懐かしくも思いました。

ということで、まだまだ思うところはあるのですが、秋田県内の交流会もありましたし、他校のPTAの会員の方とも情報交換や何やらで本当に楽しかった研究大会でした。

来年は徳島ですが、皆さんには是非参加してほしいと思います。

平成27年度 秋田県三行詩コンクール入賞者

■小学校の部

由利本荘市立由利小学校 4年	三浦 舜翔 さん
由利本荘市立由利小学校 1年	阿部優希菜 さん
由利本荘市立由利小学校 3年	猪股陽葉莉 さん
由利本荘市立西目小学校 5年	清橋 岳斗 さん
湯沢市立湯沢西小学校 4年	樋渡 美琴 さん

■中学校の部

横手市立横手北中学校 1年	菊池 健介 さん
横手市立横手北中学校 2年	伊藤 舞桜 さん
横手市立横手北中学校 2年	木島いずみ さん
横手市立横手北中学校 3年	畑澤 維佳 さん
横手市立横手北中学校 3年	高野 朱里 さん

■一般の部

由利本荘市立由利小学校PTA	木内 伸 様
秋田市立川尻小学校PTA	阿部 洋美 様
横手市立横手北中学校PTA	菊池 雅美 様
横手市立横手北中学校PTA	堀江 大輔 様
湯沢市立湯沢西小学校PTA	樋渡 徹 様

■団体特別賞

横手市立横手北中学校	様
にかほ市立象潟中学校	様
由利本荘市立由利小学校	様
由利本荘市立西目小学校	様



第47回

東北ブロック研究大会 亘理・山元大会

～蘇る ふるさとの復興と共に 子どもたちに明るい未来を！ 親子の絆 PTAの絆 地域の絆。今も、そして、これからも～をテーマに10月3日～4日の2日間、亘理・山元・名取市の会場で東北ブロック研究大会が催されました。

一日目は7会場で分科会が開催され、二日目は東北PTA連絡協議会会長表彰と現阪神球団監督金本知徳氏による記念講演「人生をかけて～苦しみの中には必ず成長があった～」と題した記念講演が行われました。秋田県から68名が参加し、東日本大震災の爪跡が残る復興途上の亘理・山元でPTA研修を深めました。その一部を報告します。

7分科会中第4分科会「家庭・地域と連携した小学校防災教育」では、野崎一氏(県PTA副会長)が防災意識の向上と防災への備えを築き、震災を風化させることなく次の世代に引き継がなければいけない。と話された。

第6分科会「子どもと親の心の健康づくり」では、佐藤学氏(元横手北中学校PTA会長)が若者支援事業で不登校生徒のグループミーティングを行ってきた実績を話され、安心できる家庭とは、寝るまで子どもがリビングにいれる環境の大切さを話された。



東北ブロック大会受賞者の皆さん

つながりを紡ぎ「絆」を育む

秋田市立外旭川中学校PTA会長 古井 秀行

鮭の遡上が始まる季節に合わせ開催された今大会で、第3分科会に参加しました。

基調講演では、エフエム仙台のDJ名護ひと美さんから震災当時、ラジオ局が何をすべきか、音楽を流して良いのか、安否を知らせるための個人情報放送して良いのかなど平常時では考えられないことに思い悩んだ心境をお聴きしました。また後半には、歌手ひまりのお二人が縁あってエフエム仙台で番組を持ち、震災後も歌を通じて被災地を元気づける活動をするなどの温かいトークとライブをお聴きし、その想いに共感してきました。

パネルディスカッションでは、「次代を担う子どもの育成と笑顔あふれる地域社会の役割」をテーマに事例発表が行われ、中でも岩手県の遠野中学校前PTA会長さんの発表が印象的でした。それは、大人も子どももいろいろなコミュニティーに関わることが大事で、たくさんの人と関わることで人の気持ちを分かる人間に育ち、健全育成につながるのではないかということでした。大多数が学校を卒業し、就職、結婚し子どもを持った時代は、職場や町内会、PTAが必要十分なコミュニティーでした。しかしライフスタイルが多様化した現代では、多方面のコミュニティーに関わることが肝要なのかもしれません。

東日本大震災から4年半が経ちますが、あの地震、津波の衝撃は忘れようがありません。今回被災地での開催ということもあり、大会主題にも掲げられた「絆」について改めて考える機会となりました。やはり地域やPTAも、日常から「つながり」を紡いでいくことで、強い絆をつくることになるのでしょうか。私自身PTA



第4分科会 野崎 一

命と心と親と子

潟上市立東湖小学校PTA会長 石川 陽子

東日本大震災から4年過ぎ、もうじき5年目となります。亘理・山元大会は、大きな被害を受けた地での開催で



第6分科会 佐藤 学

した。解決すべき課題がたくさん残っている中、復興を感じさせる亘理町立荒浜中学校で「心の健康」をテーマに第6分科会が開催されました。

講演では、体の動きから脳の活性化を促す「教育キネシオロジー」(注1)を体験しました。耳慣れない言葉に少なからず戸惑いを感じながらも、実際に変化を感じることができ、心の健康における興味深いアプローチについて新たに学ぶことができました。

パネルディスカッションでは主に不登校や引きこもりを中心に、家庭の問題について討議が行われました。いくつかの事例を踏まえた大変実のある内容で、学校と家庭とのつながり、親と子の関係の在り方について考えさせられることがたくさんありました。

特に「親の心の健康が子どもの心の健康につながっている」という言葉には「はっ」とさせられました。親の心に余裕がなければ、子どもの変化に気付くことなどできるはずがありません。「クオリティ・オブ・ライフ」(注2)を「クオリティ・オブ・リビング」と変換し、居間での居心地の良さが、子どもの安心感につながっているという話題に心から納得しました。

注1)教育キネシオロジー

医学的な筋力の反射を調べ、東洋医学をもとにアンバランスを見つけ、身体に最も必要で適切なヒーリングを選択して心身のバランスを整える健康法

注2)ひとりひとりの人生の内容の質や社会的にみた生活の質のこと



平成27年度 文部科学大臣表彰 受賞団体



左から八郎瀧小 相馬会長、高梨小 笠原会長

学校と共に

八郎瀧町立八郎瀧小学校PTA会長 相馬 吉信



11月19日、東京のホテルニューオータニで、八郎瀧小学校PTAの代表として「優良PTA文部科学大臣全国表彰」を受賞しました。

本校では初の快挙となります。これは、本校PTAが長年取り組んできた学校のふるさと教育などへの積極的な支援、地域の安全安心への取り組み、PTA活動への参加率等が評価されたもので、これまでの積み重ねの成果ともいえます。これまでの諸先輩方、地域の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

現在、本校PTAは学年部、厚生部、広報部から構成されております。それぞれの部門での活動の他に、学校教育と一体になった活動が数多く行われております。

昨年、新しい学校目標「目標をもち挑戦する子どもの育成」を設定する際には、保護者の意見も求められ、先生方とPTA役員が話し合いをして決定に至りました。

また、今年のPTA研修会は「小学生にラインは必要か」という題で4年生以上の子どもたちと、保護者150人、先生方20人で討論会を行いました。「ラインは危険」「便利な面もある」「使うならばルールをみんなで決めるべき」といった意見などが出され、白熱した議論となりました。

PTA活動で最も大切なことは、いろいろな課題について学校や子どもたちと話し合い、互いの理解を深めていくことだと思います。これからも、子どもをしっかりと見守りながら学校と一体になって育てて行きたいと思っています。

来年度、八郎瀧小学校は40周年を迎えます。今回の受賞を励みとし、40周年の一助となれるよう、より一層PTA活動を活発にして参りたいと存じますので、引き続き、御指導、御協力をよろしくお願いいたします。



優良PTA文部科学大臣表彰を受けて

大仙市立高梨小学校PTA会長 笠原 基嗣



私たち高梨小学校PTAは、本年度、優良PTA文部科学大臣表彰をいただくことができました。この輝かしい受賞は、一重に今まで大切に子どもたちと学校を守り続けてくださった先輩方、いつも温かく手を差し伸べてくださる地域の皆さまのお力により、学校と保護者が協力し合い、絆を深めてこられたことが評価されたのだと思います。これまで尽力してこられた先輩方、優しく見守ってくださる地域の皆さまに心からの感謝をお伝えしたいと思います。

授賞式は厳粛なる雰囲気の中で行われました。改めて受賞の持つ意味、重要性を再確認することができ、今回の受賞を大きな糧として、子どもたちの未来に向かう力強い成長の姿、我が子を想いたくましく育ててほしいと願う親の想いを継承し、次代につないでいきたいと強く決意しました。

高梨小学校では、地域との関わり合いが強く、行事やイベントに積極的に参加しています。子ども見守り隊として、子どもたちの登下校を見守ってくださる地域の方々もおり、まさに地域が参加しての学校経営と言えると思います。この特色を活かし、より発展させるために、これからも学校、地域、保護者が手を取り合って頑張っています。

これからも地上の星、愛してやまない子どもたちを、我々一人ひとりで支えていき、また次の世代へと受け継がれていくよう、しっかりと活動していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

最後に、この受賞に際し、ご尽力、ご協力いただきました関係者の皆様、お世話になっている全ての方々には心からの感謝をお伝えしたいと思います。ありがとうございます。



平成27年度 表彰一覧

平成27年度公益社団法人 日本PTA全国協議会会長表彰

■団体表彰

- 男鹿市立船越小学校PTA (会長 鎌田 健)
- 秋田市立勝平中学校PTA (会長 加藤 寿一)

■個人表彰

- 柁木 良和 (県P連 副会長)
- 菊地 広幸 (県P連 副会長)
- 山崎 精輝 (県P連 副会長)
- 泉谷 悟 (横手市PTA連合会会長)

平成27年度東北PTA連絡協議会会長表彰

■団体表彰

- 小坂町立小坂中学校PTA (会長 高橋 寛志)
- 秋田市立外旭川中学校PTA (会長 古井 秀行)
- 秋田市立四ツ小屋小学校PTA (会長 吉川ひかる)
- 由利本荘市立岩谷小学校PTA (会長 菅野 基)
- にかほ市立金浦中学校PTA (会長 中田 香)
- 大仙市立豊成中学校PTA (会長 千葉 朋穂)
- 美郷町立千畑小学校PTA (会長 横井 照彦)

■個人表彰

- 石垣 博隆 大館・北秋田PTA連合会前会長
- 畠山 耕 能代市山本郡PTA連合会副会長
- 今津谷修正 潟上市立天王小学校PTA会長
- 武田 浩輝 横手市立平鹿中学校PTA会長
- 佐藤 克彦 湯沢雄勝PTA連合会前会長



平鹿のうまさ
ままけえ弁当
(昼食)

深間内神楽



吉田小学校
スクール
バンド

東日本大震災復興支援 第4回 秋田県PTA チャリティーフェスタ in 横手

日時: 11月27日(土) 11:25 場所: 秋田ふるさと村ドーム劇場

心のきずな61 教育支援基金募金

チャリティーフェスタ募金額
21,453円
外旭川中学校PTA募金額
5,675円

全国小・中学校PTA広報紙コンクール入賞

秋田市立旭北小学校 おめでとう



佳作

秋田市立旭北小学校PTA会長 加賀屋久人氏に聞きました。

編集にあたって気を付けていることは

子どもが見ても面白いと思ってもらえるように考え、保護者に子どもたちが「ちょっとこれ見てみて〜!」親子揃って楽しんでもらえる物を目指しています。

そのため、堅苦しい挨拶等は排除し、インタビューでは堅苦しい答えにならないように、聞き出したいことを質問形式にして取材するようにしています。

編集作業はどのようにしておりますか

12名の広報部員で集まり、編集会議を行い、企画の内容やどんな内容にしていくか話し合います。その後、取材・アンケート調査・撮影など役割分担して動きますが、運動会や持久走大会などの規模の大きい行事は広報部員全員で撮影しています。

写真の良し悪しで、記事への興味が変わる傾向があり、特に写真には気を使います。

校正でも活発に意見の交換を行い、学校校正を経て仕上げます。



日新火災



お客さまひとりひとりと、
顔の見えるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255

